

「まんべくん」騒動

長万部町の人気ゆるキャラ「まんべくん」が、自身のツイッターで行った発言で大火傷を負いました。

長万部町の「まんべくん」は、結構な人気者だったのですね。恐れ入りました。勿論、「まんべくん」が自らツイッターをやることなど誰だって信じちゃいませんが、それでも札幌市内のウェブサイト運営会社社長が書き込んでいたなんて、ちょっとがっかりです。

日本では「つぶやき」と意識されているツイッター（Twitter）ですが、個々のユーザーが「ツイート」（tweet）と称される短文を投稿し、閲覧できるコミュニケーション・サービスで、今や全世界で3700万人ものユーザーが利用しているといわれています。

ツイッターは、ゆるやかなつながり、自然発生的なコミュニケーションが魅力ですが、同時に、その影響力は非常に大きく、エジプトなど中東諸国での民主化運動が一拳に燎原の火のように広がったのも、ツイッターの力だといわれています。

今回の「まんべくん」騒動も、ツイッターの便利さと影響力の前に、足下を掬われた感じがします。

「まんべくん」は、平成15年、人口約6000人の長万部町を活気づけるために誕生しました。その後、「まんべくん」の認知度を更に向上させようと、先程述べた民間会社の社長が町の了解のもとツイッターでの発信を始めたものです。開始早々から、ゆるキャラらしからぬ奔放な書き込みを連発し、それがかえって人気を呼んでいたようです。

そうはいっても、キャラクターはどのようなものであれ、制作者の意図を損なわない範囲で活動すべきものであり、今回のように、キャラクターと関係ない個人の考えを、キャラクターを通して発信することは、明らかにルール違反といわざるを得ません。

また、ツイッターでの書き込みを会社社長に任せっきりにしてきた町の姿勢は、認識不足というより、リスク管理の欠如といわれても致し方ないでしょう。

町では、今回の騒動を受け、ツイッターの閉鎖を決めたそうですが、やむを得ないと思います。出直しするしかありません。

もう一つ、私には気になることがあります。それは、自分と異なる意見、気に食わぬ発言に対する反応についてです。

他者に対する誹謗中傷、犯罪まがいの暴言などは、いくらツイッターでも許されないことは当然です。しかし、今回の「まんべくん」の発言は、キャラクターの発言としては如何かと思いますが、内容そのものは、そうしたものと一線を画すべきでしょう。にもかかわらず、ツイッターに書かれた一つの発言に対して一斉に抗議が殺到し、ツイッター自体が閉鎖にまで追い込まれるという構図、あるいは空気といったものには、危ういものを感じてしまいます。

キャラクターには何の罪もありませんが、後味の悪さだけが残ります。

(塾頭 吉田 洋一)